

N

PAT-NO: JP411042108A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11042108 A  
TITLE: LOCKING UMBRELLA  
PUBN-DATE: February 16, 1999

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
TSUCHIDA, SHOGO

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME COUNTRY  
TSUCHIDA SHOGO N/A

APPL-NO: JP09194728  
APPL-DATE: June 15, 1997

INT-CL (IPC): A45B009/02, A45B003/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a locking umbrella which overcomes drawbacks with conventional umbrellas by providing the function of a key to the natural form of an umbrella, so that the umbrella can be placed safely in any place only if there is a rod-shaped object fixed at both ends.

SOLUTION: A cord 1 which is normally attached to the root of the handle of an umbrella is made stronger by passing a metal 2 or the like through it, and a key 3 is attached thereto so that the loop of time cord 1 through which the metal 2 or the like is passed opens and closes freely.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-42108

(43)公開日 平成11年(1999)2月16日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

A 4 5 B 9/02  
3/00

識別記号

F I

A 4 5 B 9/02  
3/00

C  
A

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平9-194728

(22)出願日 平成9年(1997)6月15日

(31)優先権主張番号 特願平9-170911

(32)優先日 平9(1997)5月24日

(33)優先権主張国 日本 (J P)

(71)出願人 596115894

土田 庄吾

兵庫県姫路市御国野町国分寺314

(72)発明者 土田 庄吾

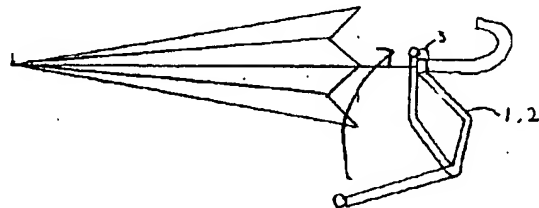
兵庫県姫路市御国野町国分寺314

(54)【発明の名称】 ロッキング・アンブレラ

(57)【要約】

【課題】雨が降っている間は非常に重宝し、だからもありがたがられる傘であるが、やんだあとは、濡れていて滴がたれる等々、特に室内で持ち歩くのは建物の清潔面からも、そしてなにより傘の持ち主にとって厳しく、これは、傘のもつ二面性、すなわち、雨が降ったら有用だが、降っていなければ邪魔ものに過ぎないという事を現わしている。本発明は、傘の自然な形の中にカギの機能を併せ持たせることによって、この欠点を克服し、どこでも両端が固定された棒状のものさえあれば、そこに、安全に、傘を置いておけるロッキング・アンブレラである。

【解決手段】通常、傘の柄の付け根の部分についているひも(1)に、金属等(2)を通して頑丈にし、そこにカギ(3)を備えることによって、金属等(2)を通したひも(1)の輪を開閉自在とする。



1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】通常、傘の柄の付け根の部分についているひも（1）に、金属等（2）を通して頑丈にし、そこにカギ（3）を備えることによって、開閉自在としたロッキング・アンブレラである。

【請求項2】請求項2に当たる発明は、請求項1の場合とほぼ同様であるが、カギ（3）を備える位置が傘の柄の先端等、初めの傘の柄の付け根の部分以外の部分になった場合のロッキング・アンブレラである。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、傘の盗難防止と置き場に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来より傘の盗難防止については、カギつきの傘縦がもっぱら一般的であった。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】これには傘が必要でないとき、そのつど、近くにカギつきの傘縦がなければならず、無い場合は、身じかに持っていなければならないが、これは邪魔物となり、とくに雨に濡れたあとなどは最悪であった。本発明は、この欠点を解決するためになされたものである。

## 【0004】

## 【課題を解決するための手段】

【請求項1】通常、傘の柄の付け根の部分についているひも（1）に、金属等（2）を通して頑丈にし、そこにカギ（3）を備えることによって、金属等（2）を通したひも（1）の輪を開閉自在とする。

## 【0005】

【請求項2】請求項2に当たる発明は、請求項1の場合とほぼ同様であるが、カギ（3）を備える位置が傘の柄の先端等、初めの傘の柄の付け根の部分以外の部分になった場合で、金属等（2）を通したひも（1）と傘の柄の一部でできる輪を開閉自在とする。本発明は、以上の構成よりなるロッキング・アンブレラである。

## 【0006】

## 【発明の実施の形態】

【請求項1】以下、本発明の実施の形態を説明する。通常、傘にひも（1）を付ける場合には、柄の付け根の部分についているケースが多いが、これは雨風等が強い際に傘の柄とこのひも（1）をしっかりと握ることによって、強い風に対処するためのものであったが、このひも（1）に金属等（2）を通して頑丈にするか、あるいは

金属等（2）のみでこのひも（1）をつくり、ひも（1）の取り付け部のところにカギ（3）を備えることによって、金属等（2）を通したひも（1）の輪を開閉自在とする。

## 【0007】

【請求項2】請求項2に当たる発明は、請求項1の場合とほぼ同様であるが、カギ（3）を備える位置が傘の柄の先端等、初めの傘の柄の付け根の部分以外の部分になった場合を想定し、この場合も同様に金属等（2）を通したひも（1）と傘の柄の一部でできる輪を開閉自在とする。ちなみに、これまで述べてきた金属等（2）は、傘の柄のところのひも（1）と一体となるため、当然折れ曲がりやすくするため、輪のつながったような形や、バネ、スプリングのような形も考えられる。本発明は、以上の構成よりなるロッキング・アンブレラである。

【0008】外出先で傘をしまう際、傘縦が無い場合でも両端が固定された棒状のもの、例えば、自転車（a）、鉄棒（b）、階段の手すり（c）などがあれば、そこに傘を掛け、柄の部分の金属等（2）を通したひも（1）をのばしてそれらを取り巻き、ひも（1）の輪にからめた状態でカギ（3）をすることによって、安全に、傘を置いておける。

## 【0009】

【発明の効果】本発明を使用することによって、どこでも両端が固定された棒状のもののさえあればそこに、安全に、傘を置いておける。現代の科学をもってしても、降雨の正確な時間はわからず、外出時、人々は傘を持たねばならない。雨の降っている間は良いが、降っていない間、特に雨の降りやんだあと、傘縦が無い時などは、傘は、濡れていて滴がたれる等々の欠点を持っていた。本発明は、この欠点を大部分取り除きうるものである。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1にかかる本発明の平面図。

【図2】請求項1にかかるカギの部分。

【図3】請求項2にかかる本発明の平面図。

【図4】請求項2にかかるカギの部分。

【図5】本発明の使用状態を示す図。

（a）自転車

（b）鉄棒

（c）階段の手すり

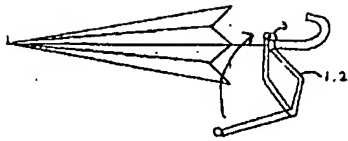
## 【符号の説明】

1 ひも

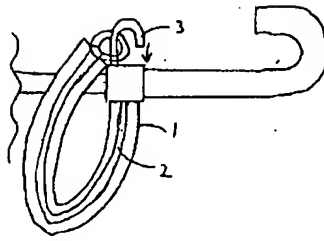
2 金属等

3 カギ

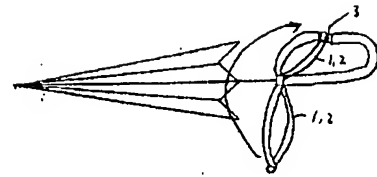
【図1】



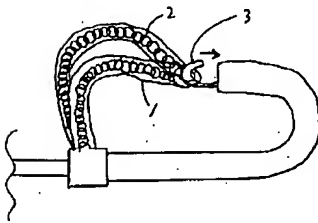
【図2】



【図3】

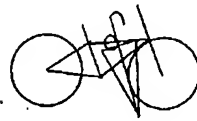


【図4】

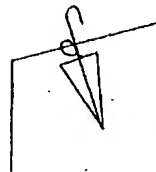


【図5】

(a)



(b)



(c)

